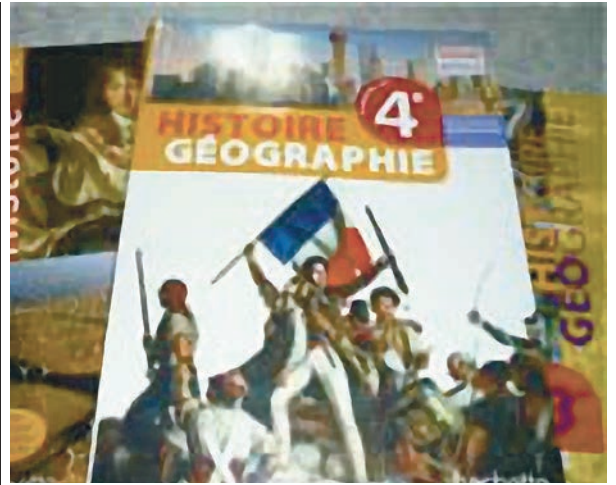


シリーズ「国土教育」 フランスの地理教科書に描かれている日本のすがた



フランスの歴史・地理教科書 (Hachette 社)



日本：危機に直面するフクシマ (Hachette 社)

わが国の国土の自然条件や社会条件を学ぶ上で、海外の学校教育において「日本」のことがどのように教えられているかを知ることが重要です。今回は、最新のフランスの地理教科書 (Hachette 社) で、日本がどのように描かれているかを紹介いたします。

景観学習…東京港・横浜港と神戸人工島

世界の3大経済圏…日本のメガロポリス性

フランスの地理学では、海岸線の景観が重要視されます。これは海洋活動(水産業、工鉱業、貿易等)と、その前提となる港湾等のインフラストラクチャーが、国家の興亡の鍵を握る要素になると認識されているからです。コレージュ第6級(中学第1学年)の教科書では、海岸空間の組織化の成功例として「東京港・横浜港」を取り上げ、島国「日本」の現在の経済的繁栄を説明しています。

また、利用可能な土地の不足解消のため、海を埋め立てて地表面を広げた神戸の人工島ポート・アイランドは、フランスの地理学者・地理教育者にとって大変魅力的な事例研究対象となっています。

圏を形成していると認識されているからです。

なかでも、日本のメガロポリスは、国内の人口および経済活動の最重要部分が太平洋沿岸の極めて狭いエリアに集中していることから、フランスの地理学では、とりわけ興味深い事例として捉えられています。【コレージュ第4級(中学第3学年)】。

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故

リセ第2級(高校第1学年)の教科書では、経済先進国における自然災害リスク・技術リスクのケーススタディ対象として「東日本大震災と福島第一原子力発電所事故」が取り上げられています。

6割を割いて、東日本大震災と原子力発電所事故の概要と影響(カタストロフィーの発生)、日本の国土が自然災害に対して極めて脆弱であり、これに対応するため、日本ではさまざまな防災・減災対策が講じられていることが解説されています。

自然災害大国、メガロポリスのある国「日本」

密集地域」と主要な自然災害発生場所・原子力発電所を重ね合わせた図面/民家を襲う津波の写真(宮城県)/東北地方太平洋沖地震の震源地と津波被害の影響エリアを示す図面/仙台市震災復興計画における津波対策施設のイメージ図/神戸港震災メモリアルパークの写真(災害記憶の維持)/東京の小学校における防災訓練の写真/ル・モンド紙の関連記事(複数)など、教科書で用いられている資料も極めて多彩です。

日本と中国…地域内競争と世界的野心

フランスの地理教科書で、日本が最も大きく取り上げられるのはリセ最終級(高校第3学年)です。2013年版学習指導要領では「日本と中国…地域内競争と世界的野心」という学習テーマが設定されており、Hachette社の教科書は、2割以上を割いて南・東アジアにおける日本と中国の経済的・地政学的ライバル関係を説明しています(要旨は次の通りです)。

▽南・東アジアでは、巨大な金融市場と高度な技術力を背景として、日本が経済的なリーダーシップを発揮してきた。日本は「世界の研究所」という位置づけにある。

▽しかし、この20年間、日本が経済成長を止めていたのに対し、中国は経済競争力を高め、世界第2位の経済大国という地位を確立した。中国は「世界のワークショップ」という位置づけにある。なお、生活水準では、中国はまだまだ日本には及ばない。

▽地政学的な競合関係をみると、日本がアメリカの主導の下に世界的な政治力・役割を果たしているのに対し、中国はアメリカの影響力抜きで世界的な政治力・役割を果たすことを狙っている。

このようにフランスの地理教科書が、わが国の説明に多くを割いているのは、現代日本が世界の中で大きな役割を果たしているからです。学習指導要領の変遷をみると、実は、謙虚にならざるを得ない事実が隠されています。そ

れは、ここ20年間で、フランスの地理教育における日本の扱いがどんどん小さくなっていくという事実です。

大切なポイントは、それほどフランスの地理教育は、世界経済や世界政治の変遷に鋭敏に反応しているということです。こうした地理教育を受けた若い世代が将来のフランスを創る、つまり、フランスの対日観はこうして形成されるということなのです。

(国文学アナリスト 森田康夫)

丁寧案内するサイクリングツアーといったコンテンツ提供は、外国人観光客にも人気を博しています。鉄道でも、自転車をもそのまま持ち込めるサイクルトレインも普及してきました。

従来、自転車といえばレンタサイクルのサービスがありますが、現在は通信技術の発達や電子決済が進展し、サイクルステーション型のシェアサイクルも可能です。これなら、借りた場所に戻さなくとも、別のステーションに戻す「乗り捨て」もできます。

「道の駅」がサイクリング拠点化に対応し、インバウンドにも対応できるサイクリストの受け入れサービスの充実が進むことで、自転車による滞在型コンテンツの提供といった、新しい情報発信も期待できます。「自転車活用・推進」が地域の特徴に根ざした「道の駅」の拠点づくりに一役買うことでしょう。

点描 道の駅

松波成行
ジョギングをすると、短い距離でも息が上がり足が回らなくなる私ですが、先日、久々に自転車で遠出をしたところ、一日で約60キロの「チャリ旅」を楽しむことができました。自転車は移動手段の中では最もエネルギー効率が高いと言われています。老若男女の身体能力を問わず、また免許を必要とせず長距離の移動性が得られるのは「自転車」の最大の魅力でしょう。

近年は自転車が観光や地域のコンセプトを形成する上で注目されています。瀬戸内のしまなみ海道のようにスポーツサイクリストが集まる拠点はその嚆矢でしょう。専任ガイドが里山や旧街道を